

第2回 登別市中央地区まちづくり協議会 議事録

開催概要

日 時 令和5年6月13日（火） 18:00～19:45

場 所 登別商工会議所3階

出席者 別紙のとおり

議事内容

1 開会

総務部本庁舎整備推進グループが進行

2 あいさつ【総務部次長】

- ・昨年12月に本協議会設立後、皆様のご協力をいただきながら、ワーキンググループ及び学生委員会を設置し、これまで協議を重ねてきた。
- ・前回の第6回ワーキンググループにおいて、協議会へ提案する3案を決定した。
- ・協議会においてコンセプトを決定していただき、現庁舎跡地の利活用だけではなく、中央地区におけるまちづくりに関する具体的な協議を進めていきたい。

3 議 事

(1) コンセプトの決定について

(会 長) 協議会の成立報告

(事務局) 状況説明(別資料)

- ・昨年12月の第1回目からこれまでに計6回開催してコンセプト(案)を協議してきた。
- ・日本工学院北海道専門学校、登別明日中等教育学校、登別青嶺高校の学生による学生委員会も設置して、意見交換を行い、その結果をワーキンググループに情報提供をして、コンセプト(案)の協議の参考としてきた。
- ・第6回のワーキンググループで、3点のコンセプト(案)を協議会に提案することに決定した。

案①「つながるまち つなげるまち つたわるまち つたえるまち」

(WG参加者A)

- ・中央地区も、先人の知恵と努力によって、そして未来に向けた希望と希望を託したまちづくりがされてきたという経緯がある。
- ・歴史の中で培われたものは、これからのまちづくりにおいても重要なものでこれからも、人々に伝え、未来に繋げていかななくてはならない。一方で、世界は常に変化しており自分たちにも変化を求められてるとも言える。
- ・歴史を知る先人と、次代を担う世代のアイデアや夢や希望を繋げて、お互いの心が繋がるようなまちづくりが必要であると提言する。
- ・若い世代と高齢者のどちらか一方の意見を尊重するのではなく、様々な人の考えを、繋げていくことが必要ではないかと考えている。
- ・世代間、経済、人々が繋がること、また、人と人の出会いやそれぞれの人の価値観を認め合えい共有することで、初めて新しい価値や新しい経済、新しい商売が生まれ、賑わいが起こると考えている。
- ・世代間が繋がり、そこに人々の集う心と心が伝わり、またそれを次に伝えて繋ぐことで、いい波が生まれると思う。それをこの町の「豊かさ」としたい。

案②「まちと温泉、人と人がつながり、未来をつむぐまちづくり」

(事務局)

- ・ワーキンググループでも協議がスムーズにいくようにたたき台として考えた。
- ・これまでのワーキンググループでの協議や市民・団体などの意見交換を参考に、登別市に住んでいる住民だけではなく、温泉を訪れる観光客など、あらゆる人が、様々な形でつながることで、より素晴らしい未来を築いていきたいという思いを込めた。

案③「いつでも誰でもホッと一息、ふらっと行きたくなるまちづくり」

(WG参加者B)

- ・宿泊施設やカフェなどのハード面だけでなく、このまちに、将来的にいたくなるようなまち、進学等でまちを離れたとしても将来的にまたこのまちに戻ってきたくなるようなまちにしたいという心理的な部分も考慮した。
- ・いつでも誰でもについては、朝から夜まで常賑わいがあるまち、また、子ども連れの家族、学生、大人、高齢者など、どの世代の人でもほっとできるような場所がいいなと考えた。
- ・ふらっと行きたくなるという部分については、何か目的がなくても行きたいなと思えるまちがいい。また、人によって違う様々な目的が達成できるような、色々なことができるようなまちづくりになればと考えた。

⇒事務局の説明及び3案についての質疑等無し

協議

(委員A)

- ・「繋がり」や「人」など共通している部分をつなげて1案を作るのはどうか。

(委員B)

- ・どれも素晴らしいと思う。

- ・「つながる」という部分はすべての案の共通している部分だと思うのでコンセプトに入っている方がいいと思う。
- ・これからの高齢化社会に向けて、心や体の健康を含めたような言葉も含めた方がいい。

(委員C)

- ・3つの案があるので、つなげた方がいい。また、コンセプトなので、ある程度、話のテンポ、リズム感のある覚えやすいということも必要だと思う。
- ・コンセプト案①に「未来を紡ぐ」、「つなぐまちづくり」等を追加するとういと思う。

(委員D)

- ・少子化が進むことから、観光客と地元の人を「つなぐ」というのが良いと思う。温泉だけの観光でなく、経済的にも人の交流でも登別市全体を考慮できるようなコンセプトにした方が思う。
- ・ヌプルが開業して3ヶ月ぐらいたつが小学生や高校生が集まれるような温かい場となっているので、まちの雰囲気も、そのようなイメージが良いと思う。
- ・②案の「まちと温泉」だと、交流の範囲が狭いので「温泉」ではなく「観光」に変えた方が良い。

(委員E)

- ・「つながるつなげる 人と人 観光とまち ふらっと行きたくなるまちづくり」のような3案をまとめた形の方が良いと思う。

(委員B)

- ・3案をまとめることで、ワーキンググループで話合ってもらった人たちの考えたコンセプト違う意図になってしまうか。

(会 長)

- ・作成した案を必ずしも採用するという前提で話し合いをしていない。また、基本的に、3案すべて、このまちをどうしようという考えを前提として作られたコンセプトなのでその点についてはワーキンググループの参加者は理解していると考えている。

(WG参加者B)

- ・グループワークに参加された方々はコンセプト案がそのまま使われるとは思っていないと思う。

(WG参加者A)

- ・ワーキンググループは、提案をするというポジションであることは認識している。提案したコンセプト案には強い思いはあるがあとは協議会にお任せしたい。

(委員G)

- ・市民が主体なので、市民が住みよいまちであることが重要。
- ・市民全員が観光大使のような形で登別温泉を支えていき、経済もこれによって活性化させる。

(委員H)

- ・3案を繋げて、一つの案にした方がいいと思う。委員Eの「つながるつなげる 人と人 観光とまち ふうと行き たくなるまちづくり」がしっくりくる。
- ・人と人の繋がり、観光も大切だが、小さい繋がりからどんどん大きな繋がりになり、企業間の繋がりや団体間の繋がり、また、市を越えての繋がりにも繋がっていくと思う。

(委員I)

- ・3案繋げたら良いと思うが、それぞれの案にそれぞれ思いがあると思う。
- ・まちづくりという部分で、能動的に「つなげる」「伝える」というところを強調しながら言葉を組み合わせた方が良いコンセプトになると思う。

(委員B)

- ・市役所跡地のイメージが共通してるのかわからない。それによってコンセプトが違ってくるのでは。

(会長)

- ・中央地区まちづくりなので、跡地利用だけを前提にしたものではない。

(委員J)

- ・超高齢社会を見据えて、どんな立場であっても役割をもって社会に参加することを支援していくことが大切なキーワードになっていく。また、それぞれの人がお客様になるのではなく、自らが発信していく、役割をもって参加をして

いくという意味のコンセプトが大切だと思う。

・3案を一つにするのは現実的な時間を考えると難しいので、1案を選ぶでいいのでは。

(委員G)

・やはり、市民が、このまちに住んでよかった、住み続けたいというコンセプトが大事だと思う。

(会 長)

・「つながる つなげる」の部分は、共通しているという前提で、3案を組み合わせる前提で進めたい。

(委員B)

・最後の「ふらっと行ける」を「ホッとする」のような言葉に変えた方がいいかなと思う。

(会 長)

・「つながる つなげる 人と人 観光とまち ホッとするまちづくり」はどうか。

(各委員)

・テンポ、リズム感が良くない。

(委員G)

・「観光とまち つながる つなげる 人と人 ホッとするまちづくり」はどうか。

(各委員)

・こちらの方が良い。

(会 長)

・他に意見がなければ、「**観光とまち つながる つなげる 人と人 ホッとするまちづくり**」をコンセプトとしたい、よろしいですか。

⇒意見等無し、各委員賛同

(2) 今後のスケジュール (案) について

(事務局) 状況説明 (別資料) 説明

- ・当初の予定より、コンセプト案の決定が3ヶ月ほどずれ込んでいる状況
- ・今回の決定を受けて、次回ワーキンググループで具体的な協議を進めていきたい。
- ・協議に際し、進め方や方針等について、協議会で決定したい。
- ・決定した方針に基づき、来年1月までを目途にワーキンググループで協議を重ね、その後、本協議会での協議を行い、来年3月までに提言を取りまとめていきたいと考えているが、方針の内容次第では、スケジュールについては、柔軟に対応していく。
- ・併せてサウンディング調査を行う旨説明。

⇒委員からの質問、意見無し

8 閉会

19時45分 閉会

以上